



特集 火事が起きたら そのときあなたは

火災のデータを知る

いつ何が起こるか分からない時代。台風、豪雨災害、地震、そして火災。「火災の発生は皆さんの意識次第で限りなくゼロに近づけることができます」と、東温市消防本部総務予防課の玉井一輝主事は話します。

令和2年の全国で起きた火災総件数34,691件のうち住宅火災は10,564件で、約3割を占めています。東温市では令和2年の火災件数のうち、およそ半数が住宅火災となっています。

令和2年に起きた住宅火災のうち、死者数は899人（放火自殺者等を除く）です。その

うち約72%にあたる645人が65歳以上の高齢者となっています。死因の約半数は睡眠中や体調不良による「逃げ遅れ」となっています。

火の元はどこに

住宅火災の原因はさまざまありますが、主な原因は放火、コンロ、タバコ、電気機器等です。家の周りに置いてある可燃物や郵便受けの新聞等に火を付けられて放火が起こることがあります。家の周辺はこまめに確認し、不要な可燃物は置かないようにしてください。

溜まった吸い殻への着火や寝タバコが火災の原因となります。吸い殻はこまめに片付け、

寝タバコはしないように気を付けてみましょう。

ほんの少し目を離れた際に油が高温になって一気に燃え上がる「消し忘れ火災」も多いことがわかっています。火を使わないIH調理器も同じです。最近は一温度になると自動的に消火するコンロもありますが、鍋底の形によって作動しない場合もあるのが注意が必要です。調理中にコンロの火が衣服の袖口やすそに燃え移る「着衣着火」でも、毎年多くの死傷者を出しています。

「電気火災」の発生原因は日常に多くあります。コンセントとプラグの隙間に溜まったほこりが湿気を含み、火を噴き出す場合があるため、こまめに掃除

をしてください。コードを壁などに固定した時に、コードの被覆や心線が傷ついてショートしたり、束ねたコードが発火するケースもあります。火災につながる配線や固定はしないようにしましょう。

火事が起きた時の行動

万が一、火事が起きてしまった場合は、自分だけで消そうとすると、逃げ遅れたり、通報が遅れて被害が拡大したりする可能性があります。まずは「火事だー！」と大声を出して周りに知らせ、消火できるのであれば初期消火を行いましょう。もちろん、危ないと思ったら

火災が起きた時の3ステップ

- ①大きな声で周りに知らせる
- ②消火できそうだったら火を消す
- ③火が天井に達する前に逃げる

火災の現場は凄まじい

火災の現場には、これまで数えきれないほど出動しました。現場は、火の粉が充満し、見てられない状態です。家の中も荒れ、火の粉とすすの匂いが凄まじいものがあります。

火の勢いが強くなかなか消火することができなかったので、夜10

時から出動し、火が消える頃には朝になっていたときもありました。現場では水の確保、近隣の人たちの安全、隣家の住宅への燃え移りがないか配慮をしなければなりません。市民の皆さんには、普段から火を使う時には、火の元を離れないよう気を付けてほしいです。



まさちか
渡部 政近 副団長
東温市消防団
副団長

就寝中は特に注意!

就寝中に起きた火災により多くの方が亡くなっています。住宅火災の死者数を時間帯別に見ると、0時～6時の間が平均より1.2倍多くなっています。

就寝中は特に火災に気が付きにくく、逃げ遅れる可能性が高いです。特に高齢者は避難に時間が掛かり

死亡率も高くなります。

就寝中に火事が起きた時、住宅用火災警報器が作動して火災に気付くと早期に避難することができます。火災による被害を減らし、命を守るためにも、住宅用火災警報器の設置や定期的な点検をお願いします。



かずき
玉井 一輝 主事
東温市消防本部
総務予防課主事

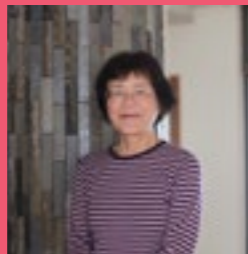
あなたの家庭は火災予防できていますか



渡部さん家族

まさよし
雅由さん
えりか
枝里香さん
こうへい
沈平くん

火災報知器や消火器は設置しています。家族の中で喫煙者もいるので寝タバコには気を付けるようにしています。正直、火災の知識についてはわからないところもあります。



きみこ
萩原 貴美子さん

夫婦で60歳を越えたあたりから火災予防は意識しています。特に油を多く使う料理を作る時は特に気を付けています。



「命を守る」 「備え」

ず「逃げる」。特に高齢者、子ども、身体が不自由な人などは周囲の人に声を掛け、避難することが何よりも大切です。

避難時に忘れてはいけないのが煙の恐ろしさ。実際に火災の死因は、火傷に次いで一酸化炭素中毒・窒息が多くなっています。建物内で煙が充満している時は低い姿勢を保ち、鼻や口をハンカチ等で覆い避難しましょう。避難時は、火災が起きている部屋のドアを閉め、持ち物にはこだわらずにすぐに避難してください。一度避難したら戻らないようにすることが大切です。消火器で初期消火をする場合、火炎が天井に達してい

れば、消火を諦めて避難を優先してください。

「想定」して備える

火災予防は、火災を想定した予めの準備が大切です。家の中や周囲は火災が起きにくいよう整理整頓をして火災が起きにくい環境づくりをしておきましょう。防火・防災訓練の参加など、いざというときに自分で動けるような知識を身に付けることも大切です。

特に高齢者や身体の不自由な人たちは、緊急通報システムや緊急通報用FAXを利用する、通報内容など記入したカードを事前に電話のそばに準備する、民生委員や地域ボランティアなどからの協力を依頼することも火災予防に効果的です。自分の命や家族の大切な命を守るためには、早めの心の準備が大切です。皆さんの心の準備はできていますか。

火の元に気を付けて

命を守る準備が大切

火災から命を守る 10 のポイント

4つの習慣

- ①寝タバコは絶対しない、させない。
- ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- ③コンロを使う時は火のそばを離れない。
- ④コンセントは、ほこりを清掃し不必要なプラグは抜く。



6つの対策

- ①火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- ②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- ③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- ④火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- ⑤お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保

- し、備えておく。
- ⑥防火防災訓練の参加、個別訪問により、地域ぐるみの防火対策を行う。



消防署では、定期的に住宅用火災警報器の調査を行っています。

ご家庭の火災警報器は作動していますか？

平成23年6月から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。火災警報器は火災の発生を熱や煙を感知して早期に住宅内の人に知らせ、火災の死因で最も多い「逃げ遅れ」を軽減してくれます。

平成30年から令和2年までの3年間で、住宅用火災警報器の設置効果は設置をしていない場合と比べて死者数、焼損床面積は約半減、損害額は約4割減となっています。警報器の設置で死亡リスクや損失

の拡大リスクを大幅に減少させることができます。

設置するだけではいけません。警報器が正しく稼働するか定期点検が必要です。本体のボタンを押すか、付属のひもを引く定期点検を行いましょう。少なくとも年に2回は点検が必要です。反応しない場合はすぐに交換しましょう。

警報器には寿命があります。設置後10年を目安に本体の交換をお願いします。設置年数は設置の時に記入した設置年月日や交換期限で確認できます。記載がない場合は製造年でおよその時期が分かります。

新しく交換する時は生活に適した

機器を選びましょう。火災などの危険に対して、安心できるさまざまな機能を兼ね備えた機器の設置を検討しましょう。

